

抱月・須磨子の 藝術座の不思議

新潮講座 2019年11月2日、3日

講師

元藝術座創立百年委員会会長 岩町 功
邦楽研究家 関川勝夫

抱月・須磨子の藝術座の不思議 (2019. 11. 2～3 文責・岩町)

1. 藝術座の不思議～この解明が本講座の目標

- ①不思議その1→新劇で飯が喰えた ②不思議その2→創立2年後に自力で藝術倶楽部創建
- ③不思議その3→国内外の巡業195所 ④不思議その4→松竹興行社が大劇場上演を引受る

2. 講座1「藝術座の経済性」→抱月の幼少年期を育んだ石見の鉄山の特徴

花崗岩の風化した砂鉄を木炭で高温燃焼、銑鉄（鋳物鉄） [資料3・パワーポイント]

- ①集団で生活し、集団で生産 山内、同一区画の棟割長屋、養米貸与
- ②生産は協業、賃金は職種別、盆と大晦日に帳簿上で清算（貨幣経済）
- ③鉄山の間人観→生産手段・個（独立した一人・物）→抱月の女性観
村方（農村）→「五人組条目」、石見の鉄山→「山内掟」

3. 講座2「藝術座旗揚げまでの経緯」抱月島村瀧太郎の生涯(1871～1918)

もと佐々山姓、浜田市金城町で生誕。父は鉄山の支配人。ずさんな経営で破産、極貧。浜田町の裁判所で苦学勉勵。私塾で英・国漢・数を学ぶ、検事嶋村文耕に見出され、養子縁組、東京専門学校（早稲田大学）英文科をトップで卒業。1902年、3年半の英独に留学、『復活』、『人形の家』等観劇多数

近代劇から強烈な感動（人間の包蔵する問題をリアルに表現）

- ①主題、②女優、③音楽・劇中歌、④演技、⑤照明

帰国後、教授。「文藝協会」で『人形の家』を翻訳・演出、主役の女優松井須磨子は絶賛さる。恩師坪内逍遙と「彼女との恋愛問題と演劇観の対立」で離反。[資料4-1～6]

1913年「藝術座」を結成、中村吉蔵(1877～1941)須磨子(1886～1919)門下生らと。

従兄弟の永見勇吉(1872～1913)豊国銀行総支配人資金援助、劇団経営は経済活動・事業、小劇場の建設と劇団・小劇場の法人化を進行。

4. 講座3「藝術座の経営」1915年神楽坂に「藝術倶楽部」（小劇場・劇壇事務所）創建 [資料5]

巡業は芸術座の新芸術普及の主要事業「革新的な巡業システム確立」[資料6、7、8]

『復活』の劇中歌「カチューシャの唄」が一世を風靡し、経済的基礎を確立。1918年松竹と提携、11月5日スペイン風邪に罹り業半ばで急逝、47歳。[資料9、10、11]

5. 講座4「抱月・須磨子の死・藝術座の遺した宝」

- ①上演料（ギャラ）の確立、演劇芸術創造の価値の貨幣表現→演劇上演の持続安定化
- ②水平興行地→全国に新演劇の植付→築地小劇場・プロレタリア演劇の素地開拓
- ③芸術総合大学と劇団員のアパートの建設を構想→資金を貯蓄
- ④男女平等の先駆的女性観→上演劇の主人公は総て女性→大正デモクラシー

資 料 編

[資料1] 劇団員の給与について、 芸術座と現在の同規模の新劇団との対比

	芸術座	現在の新劇団
①上演に関係なく	全員に能力給 (月給)	制作・照明等の スタッフのみ能力給 (月給)
②上演時に支給	役柄・キャリアの差 (日給)	役者→役柄・キャリア スタッフ→固定給に加算
③上演時に役者が スタッフの仕事を した時の報酬	内容別に賃金を設定 日給に加算	仕込・バラシ手当 一律 2000 円 (上演時支給額に加算)
④巡業中のアゴ・アシ マクラ代は劇団持ち、 上記以外の巡業手当	あり、金額不明	公演日のみ 8 千円～2 万円 (役柄・キャリアの差)
⑤空き日に劇団員が 上演料を抱月に払い 上演	日給+スタッフ賃金 参加劇団員数で 除した入場料収入	なし

[資料 2] 芸術座員・笹本甲午(1896～1923)の記事
(『松井須磨子とその一座』1916.8『新小説』)

芸術座員・笹本甲午(1896～1923)の記事

「日本に於ける新劇団の中で役者にめしの心配をさせないのは芸術座だけである。汽車に乗るとき弁当代の外にほんの少しではあるが小遣ひくれるのもこの団体だけである。」

女優・原泉(1905～1989)氏の言 (中野重治夫人)

俳優・松本克平(1905～1995)氏の言

生誕百年 1971 (昭和 46) 年の浜田高校で講演

「1929 年以来 40 年間、民衆演劇の確立と新劇職業化に努めたが、抱月の藝術座 5 年間の成果に及ばない。岩町君、これからだよ、業半ばにして倒れた抱月の想いを受継いで行こう」

小生→住民参加による舞台芸術創造こそ抱月の故郷で発信すべき事業→1994 年文化ホール館長に就任以来 25 年間 11 本の住民参加創作ミュージカルの企画・監修・演出・上演

[資料 3・パワーポイント]の内容

- ①1902 年、留学時代の抱月
- ②石見国 (島根県)・安芸国 (広島県) 国境図
- ③島根県浜田市金城町の鉦・鉄穴流しの跡地
- ④鉄穴流し (砂鉄の採取)
- ⑤鑪と天秤鞆
- ⑥鑪の構造 (付・操業の動画)
 俵国一『古来の砂鉄製錬法 (たたら吹き製鉄法)』(1933)
- ⑦石見の鉄山の特徴
- ⑧大英博物館入場申込書
- ⑨西欧近代劇から強烈な感動
- ⑩文芸協会の人々
- ⑪女優松井須磨子
- ⑫『復活』第一幕 須磨子のカチューシャ

- ⑬新聞発表の「カチューシャの唄」
読売新聞、1914(大正3)年3月25日
- ⑭「芸術倶楽部」の写真入りの専用封筒
- ⑮「芸術倶楽部」平面図
- ⑯現在のプーシキン劇場
- ⑰1915(大正4)年12月 芸術座と小ロシア歌劇団
- ⑱2015年9月浜田の市民演劇一座、プーシキン劇場で上演
- ⑲柳永二郎『須磨子の藝術座』
- ⑳抱月のデスマスク
- ㉑死の前日の須磨子と伊原青々園宛ての遺書
- ㉒雑司ヶ谷霊園の抱月の墓地の石面の刻字
上面「夏草や つわものどもが 夢のあと」
側面「父母 みんなの 墓」

[資料4-1] 『四十歳』
 《『早稲田文学』巻頭言、1911(明治44)年11月号》

二十歳が所有してあるすべては love である。
 三十歳にはまだ其の色香は残つてゐる。併し肉の方がまじつて来る。最も花やかなのは功名の心である。
 四十歳にはもう love は無い。たゞ其の追憶がある、羨望がある、悔恨がある。最早空想の花は咲かない。不安の影がさす。
 love と ambition の残軀！ 四十歳のすべてには臆病な打算の心が息をしてゐる。四十歳に至つて、無邪気を暗示する顔の筋肉が全く隠れて了ふ。表情の何処かにふてぶてしい、物凄い線が浮かび出る。
 呪うべき四十歳よ。

[資料4-2] 中山晋平『或る夜の記述』

小林キジ『中山晋平ノートによる抱月、須磨子の恋愛と藝術』（1969.10「月刊しなの」）に所載
 内容～1912年8月2日夜の事件～抱月と須磨子の戸山ヶ原での密会の現場を、抱月妻と長女が取り押さえる

【資料4-3】『心の影』《『早稲田文学』1912.9月号》

通り雨、通り雨、
恋の邪魔して通る雨、
それで思ひ切られる仲ぢやなし、
晴れて行け、晴れて行け、
跡には濡れた青桐の
夕日の蔭のつばくらめ。

或(ある)時(とき)は二十(はたち)の心(こころ) 或時は四十の心 われ狂(くる)ほしく
いたづらに此(この)世(よ)を過(す)ま てもなし 我が身滅びよ天地崩れよ
ともすればかたくななりし我が心 四十二にして微塵(みじん)となりしか
くれないに黄金(こがね)に燃えて水色(みずいろ)に さめてはまたも燃ゆる君かな
かりそめに結びし紙の誓(ちか)ひにも 末(すえ)をかけたたり住吉(すみよし)の宮(みや)

【資料4-4】文藝協会会長・坪内逍遙の演劇活動・劇団観

(逍遙『新演劇団としての文芸協会の立場』(1913.3.16『大阪毎日新聞』)
「劇は他の芸術とは違つて、一団体を成さない以上は成立たない(略) .団体を離れては劇なし。(劇団は)軍隊の規律以上の規律を守らねばならぬ責任を有している団体である。(規律に反すれば、何等かの制裁が存在せざるを得ない→抱月の言動は規律に反している)

【資料4-5】早稲田大学学長・高田早苗宛て抱月書簡(1913.2.7付)

(安藤更正『未発表の抱月書簡』(1959.4『早稲田文学』)
『小生は最早道理の外を歩み居り候ものに有之、道理の上にては一言も面を上げて申上ぐる事無之候へど、(演劇活動の禁止←文藝協会への出入り及び須磨子との接触禁止の現状は)今の小生が生命の源を杜絶せらるると同じで(略)何れにしても亡ぶものならば何とかして見たしとの念も禁じがたく(略)』

**[資料 4-6] 芸術座の設立、抱月の置かれた情況、
門下生・相馬御風の苦悩**

相馬御風 「明治三十九年以後の島村先生」

(『早稲田文学』島村抱月追悼号 1918年 12月)

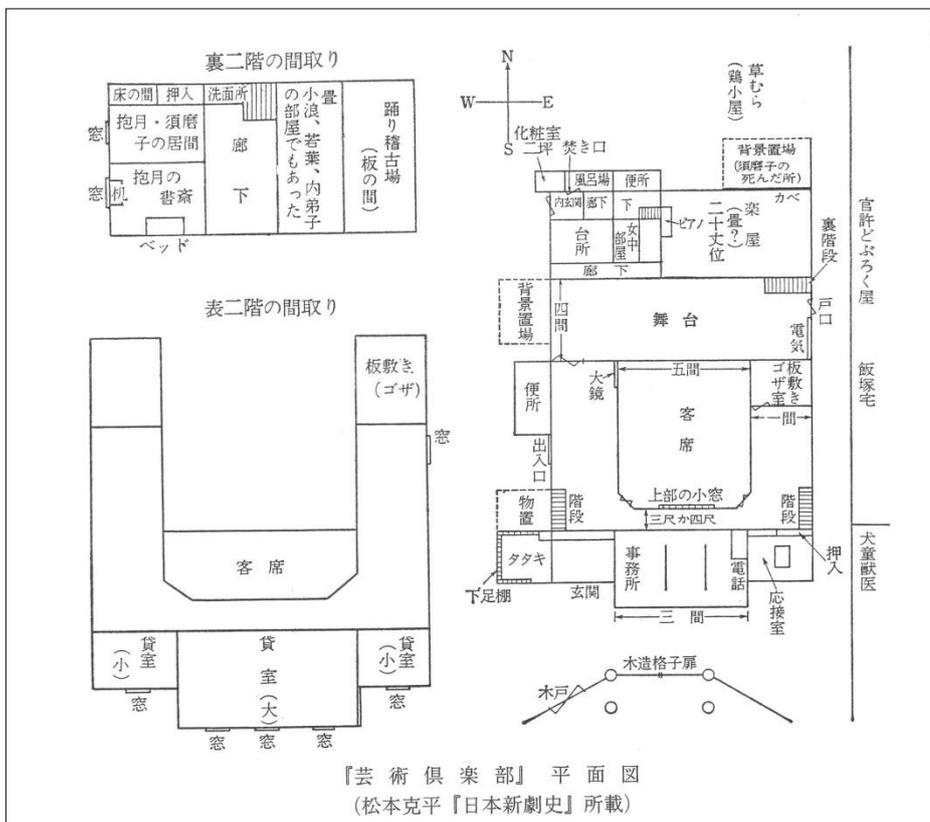
『芸術座の設立とその活動！(略)あの刹那に於て私達の採るべき唯一の態度は、全く島村先生の提議通りあの事業の実現に力を致すこと(芸術座設立を門下生たちが全面的に支援)より他になかった。それでなければ私達はあの時既に私達の恩師を失はなければならなかつたのである。(孤立無援の抱月は社会的に抹殺されていた)

[資料 5] 「芸術倶楽部」 平面図 (岩町功著『評伝島村抱月』下巻)

舞台は間口 7 間・12.7 間、奥行 4 間・7.3 間、 300 座席

浜田市の文化ホール (公立文化ホールの標準舞台)

間口・18.1 間 奥行・12.8 間 1152 座席



【資料 6 - 1】 柳永二郎『須磨子の藝術座～変わった一座の話』
(『演劇新派』1939 (昭和 14) 10 月)

22 歳の柳永二郎(1895～1984)が 1917 年の藝術座の 10 か月巡業に参加した時の話

「僕は特ダネになる程に変わった芝居も知らないから、松井須磨子の藝術座の話でもしませう。

①島村先生の考へ方から出発して居るのですが、一座は巡業に出ると宿屋は全部上下なしの平等で一つ家に泊るのです。もつとも男優の宿と女優の宿は別だったり、大きな家だと表の方が男優で、裏の方が女優といふ工合でした。お須磨さんだけは先生と別の室に居りましたよ。勿論年齢的にや、経験的に長幼の順もありましたが、そんなですからまあ全体に平等といふやうな気持ちで、一座は巡業中を殆ど修学旅行のような呑気な気持ちで (略) 四ヶ月もの巡業をしたことがあります。

出し物は売物がカチューシャでした。(略) そのカチューシャは道具は全部藝術座で持つて行くのですから、例へば公会堂のやうな芝居の張物一枚ないような所でも平気で道具が飾られたものです。そして②座員がそれぞれ部署がきまつて居て、大道具も衣装方もやるのです。僕も舞台係といふ名前で大道具をやりました。だからカチューシャの序幕に出る百姓になつて居ても、外套の下に腰へ金槌をさして居たりしたものです。その③舞台係には俳優としての給料のほか月に二十何円かの手当をくれた者です。このことはその後の僕にどんなに芝居を大事にする精神を植ゑつけてくれたか知れません。

給料は僕はその頃一日三円を支給されて居ましたが、これも巡業中は渡してはくれないで、請求書に小使ひ程度の金額を書いて署名して出すと、それだけを渡してくれる制度でした。そして④旅の終りに精算してくれるのですから、知らない間に残つて居るといふ訳です。その上帰えつて来てから純益を按分してくれたものが、その頃の僕で三百何円を貰つたのですから相当のものでした。

当時 22 歳の柳が 1917 年の藝術座の 10 か月巡業後三百円余 (月 30 円) の収入を得た。1918 年の小学校教員の初任給・月 20 円。

巡業中のアゴ・あし・枕(旅費・宿泊食事費)は劇団持ち

[資料6-2] 芸術座員・笹本甲午(1896~1923)の記事
(『松井須磨子とその一座』1916.8『新小説』)

「背景は帝劇とか有楽座とかいふ中央の劇場で使用した背景をそのままもつて行く。中央で興行する際あらかじめ地方行きの用意をする。(略) つまり地方の観客は藝術座だけが中央の舞台其のままを見せてくれる」

[資料7] 岡より子(1897~1996) 自伝小説『若い日』(島根県立図書館蔵)

「トルストイという作家の偉大さわかった。愛するが故に別れねばならない人間の運命に愛憐の涙を注いだ。今夜観た復活劇は自分の心の中で永遠に切り刻まれ消えることはないと思った」。

(1917.8 今市町借楽座(現島根県出雲市)で「復活」観劇)

[資料8] 『誓紙』(伊藤理基『須磨子』1919(大正8)年2月『萬朝報』掲載)

伊藤は文芸協会の演劇研究所の1期生、須磨子と同期生

「誓紙1」(時期～「文芸協会」脱退、新劇団の創立を協議中)

誓 紙

私達兩人、此度文芸協会を離れて、演劇運動を起すについては、其事業の為に必要なる限り兩人の恋仲を精神的に確く相守ると共に、おそくとも二、三年以内に準備を調へ、兩人正式に結婚する事を約束す、其間もし何れか一方操守を破るの行為ありたる時は、他の一方は此誓紙を破毀する事を得べし、依て後日の為、此誓紙式通を作り各署名して壺通宛所有するもの也

大正二(1913)年六月四日

島村瀧太郎 ㊞

小林正子 ㊞

「誓紙 2」(時期～「芸術座」公演大欠損、男優脱退、座崩壊の危機)

誓

私達二人は、必ず一生不実の別れをせぬ証拠として、芸術座存続中も現在の関係を変へざるはもちろんにて、其上一日も早く正式に夫婦になるやうつとめ、万一芸術座不成立となる時は、直に兩人正式結婚の手続をなし、その以後如何なる事業をなすにも、必ず二人の夫婦関係を破らざるやうすべし、後日のため誓書如件

大正三(1914)年二月十二日

島村瀧太郎 ⑩

小林正子 ⑩

「誓紙 3」(時期～『復活』公演大成功、[カチューシャの唄]大流行)

印紙 証

下記ノ兩名ハ終生愛情ヲ渝エザル事ヲ契約ス 其証拠トシテ 島村瀧太郎ハ現在ノ妻ヲ本年六月中マデニ離別シ向一カ年内ニ小林マサ子ト結婚スルコトヲ契約シ 此契約ニ背クトキハ 金五千元ヲ贈与スルコトヲ誓フ 又小林マサ子ハ其証拠トシテ島村瀧太郎ト一切ノ行動ヲ共ニスルコトヲ誓フ 依テ後日ノタメ一札如件

大正三(1914)年四月三日

島村瀧太郎 ⑩

小林マサ子 ⑩

尚 此証書ハ二通ヲ作り 各一通ヲ所有ス
又島村ト小林ハ相互ニ秘密ニ又ハ同意セザル異性者ト交通シタルトキハ 一方ハ他方ニ対シ 金五千元ヲ贈与スルノ義務アルモノトス

(五千元は彼の早稲田大学教授の年収の約 3.5 倍)

[資料 9] 須磨子の死、遺書

(河竹繁俊『逍遙、抱月、須磨子の悲劇』1966.5)

(大正 8 (1919) 1 月 5 日享年 34 歳、神楽坂の芸術倶楽部にて縊死)

坪内先生、長い間先生の御恩に背いてみた私たちの事故、こんな事をお願い出来る事ではございませんけれど 先日早速入いらしつて頂いたお情けに甘へて
お願い申し上げます(略)

大変申し上げにくいのですが、何卒私の死がいをおはかへ埋めて頂ける様お
骨折を願ひたうございます

取いそぎますので 乱筆にて

すま子

坪内先生、御奥様

書は 3 通、宛先は坪内逍遙、演劇評論家伊原青々圓、実兄米山益三
内容の要点は二つ、抱月の後を追う事と抱月の墓に埋めて欲しい事
後日、新聞紙上に掲載される。

①新聞報道 遺書を掲載、一大センセーション

「愛師追慕」、生前の悪評は一掃、愛の極致、讚美

「合葬問題」も同情的に採りあげる

②吉井勇の短歌

恋に死ぬ 心たうとし しかすがに

須磨子の恋を たたへざらめや

うつくしき 珠は砕けぬ 恋のため

あはれ須磨子は 死ににけるはや

かくばかり いつはり多き 人の世に

恋に死に得る 人ありや否

③島村夫人へ一婦人の投書

(「都新聞」大正 8 (1919) 1 月 9 日の投書)

「須磨子の縊死について、記者が島村夫人に所感を尋ねた時『死ぬことの出来る人は幸せです』と申された一言を読んで思わず泣きました。世間が須磨子の恋を喝采し、悲惨な境遇の島村夫人に冷酷な冷笑を投げかけるような態度は遺憾におもいます。私は夫人に満腔の同情を寄せています」

④同墓埋葬～家族は絶対に反対

[資料 10] その後の島村家 二男三女(未婚) ～直系子孫は不在

妻 イチ (1875～1931)

長女 ハル (1897～1988)

次女 キミ (1899～1980)

長男・震也 (1902～1945年5月) 乗船が米軍の攻撃で沈没

次男・秋人 (1906～1928年5月) 一高(現東大教養部)在学中自殺

三女・トシ (1911～2005年2月) 享年95歳、会葬者9名

[資料 11] 田中澄江作『いち子と須磨子』(1978年7月・俳優座公演)

抱月の妻・いち子が主役、いち子と子どもたちの眼で抱月と芸術座活動を描く。
須磨子は死なずに父の仕事を仕上げるべきであった。

[資料 12] 住民参加創作ミュージカル 木島恭作、安藤由布樹作曲

『島村抱月～夢・ふるさと・ドラマ～』

原案・演出～岩町功 1997年・2015年の2回

浜田市・石中央文化ホール上演

使用 SP レコード・リスト (担当：関川勝夫)

■11月2日(土) 第一部

坪内逍遙 (1859.5.20～1935.2.28)

ヴェニスの商人 日本コロムビアレコード 35391～92

東儀鉄笛 (1869.6.16～1925.2.4)

秀吉と淀君 日本東京レコード 171～2

中山晋平 (1887.3.22～1952.12.30)

(ピアノ) 砂山・みそっちょ 日本ニッポノホンレコード 15148B

エレンテリー (1847.2.27～1928.7.21)

ヴェニスの商人 米国ヴィクトロ・ラ・レコード

「第四幕 マーシーのスピーチ」 64194

松井須磨子 (1886.7.20～1919.1.5)

復活 日本オリエントレコード A756～7

■11月3日(日) 第二部

松井須磨子 (1886.7.20～1919.1.5)

復活 日本オリエントレコード A756～7

生る屍 日本ニッポノホンレコード 2529～30

沈鏡 日本ニッポノホンレコード 3270～3

中井哲 中山歌子

カルメン 日本ニッポノホンレコード 3475～8

使用 蓄音機

英国製 HMV社 1929年製 卓上型 104

10インチ ターンテーブル (電池録音再生機)